

目次

口絵		i
刊行のあいさつ		i
凡例		ii
目次		iv
総説		1
第一章 明治の相馬		5
第一節 行政		
一、明治維新と相馬		
1-1 明治4年 相馬家家記		7
1-2 明治7年7月 玉野村の入会山訴訟		12
1-3 明治9年3月 市街沽券地の郡村宅地への編入		14
1-4 明治11年5月 民会決議案		16
1-5 明治12年2月 戸長役場の設置		23
1-6 明治13年12月 百槻村会規則		26
1-7 明治18年10月 玉野村の入会契約証		29
二、新町村の形成		
1-8 明治21年12月 新町村の合併案		32
1-9 明治22年12月 新町村の状況調		52
1-10 明治25年4月 中村町に区長および代理者を設置		55
1-11 明治30年9月 磯部村の分離請願		56

1-12 明治35年3月 県官の町村巡視報告		61
三、日露戦争と相馬		
1-13 大正2年9月 相馬郡勢概要		78
1-14 大正2年 郡治諸問題		91
第二節 産業		
一、明治期産業の出発点		
(一) 旧中村城下の商工の再生		
1-15 明治2～6年 商工の転換―新しい商工へ		95
1-16 明治3～5年 海浜の生業		96
1-17 明治3～5年 宇多川の鮭漁		96
1-18 明治5、6年 産馬の原点		97
1-19 明治4～11年 大店、吉田屋の営業		97
1-20 明治4～8年 吉田屋の海運		100
1-21 明治3～9年 米・穀物の取引、中央資本との関わり		103
1-22 明治2～7年 新しい町並みと人々の新しい生活		107
(二) 初代郡長大須賀次郎の巡村		
1-23 明治12年 郡長による宇多郡の地勢分析と勧業方針		110
二、明治期産業各分野の展開		
(一) 海や浦・川の産業		
① 製塩業		
1-24 明治12年 製塩所建築―新しい製塩の試み		113
1-25 明治14年 安藤彦右衛門墓碑銘拓本(長命寺境内)		114
1-26 明治29年2月16日 県内の製塩事情①		114

1-27	明治29年2月19日	県内の製塩事情②	115
1-28	明治27年	塩場日誌より―在来製塩のすがた①	116
1-29	明治30年	塩場日誌より―在来製塩のすがた②	117
1-30	明治43年4月5日	在来製塩の衰退（相馬郡の塩田）	118
	②水産調		
1-31	明治12年 宇多郡	水産の出発点	119
	③漁業の展開		
1-32	明治31年8月18日	福島県漁業組合規約決定	123
1-33	明治36年2月20日	漁業組合の創立① 和田	124
1-34	明治37年度	漁業組合の創立② 和田	125
1-35	明治36年3月30日	漁業権取得方法案 和田	126
1-36	明治36年3月16日	漁業組合による漁業（アサリ漁業規約書 和田）	126
1-37	明治37年9月30日	鰺簀漁業の決議録 和田	127
1-38	明治37年10月11日	鰺簀漁業の免許願 和田	128
1-39	明治43年2月9日	四手網漁業の許可願 和田	128
	④養殖漁業の展開（淡水魚を含む）		
1-40	明治31年10月7日	カキの養殖	129
1-41	明治42年1月14日	淡水魚族養殖組合と鯉の養殖	129
1-42	明治42年12月18日	宇多川での鮭人工孵化の推進	129
1-43	明治44年6月24日	カキ養殖の免許 松ヶ江村和田	130
1-44	明治45年6月1日	相馬郡での養貝事業の推進	131
	⑤漁業の近代化		
1-45	（明治43年度）	相馬郡水産会規則	131
1-46	明治44年2月26日	原釜で石油発動機付き改良漁船の計画	133

	(一) 農牧業		
	①農会―農業者・農村の組織化		
1-47	明治27年2月16日	行方宇多両郡農会の発足	133
1-48	明治30年9月7日	県農会組織に向けての協議	134
1-49	明治33年9月29日	町村農会の成立	134
	②農牧業の展開		
1-50	明治30年9月4日	養鶏の流行	135
1-51	明治37年12月18日	相馬郡農会による品評会	135
1-52	明治37年4月24日	浜街道の肥料需給	135
1-53	明治41年10月10日	肥料取締法改正	136
1-54	明治42年2月25日	中村町で肥料講習会を開催	136
1-55	明治43年3月5日	相馬郡内一〇か所で堆肥講習会を開催	136
1-56	明治43年3月8日	相馬郡における堆肥づくり	136
1-57	明治40年2月20日	中村町の耕地整理	137
1-58	明治43年4月16日	大野村にみる農事改良の様子	137
1-59	明治45年7月26日	明治末期の相馬郡農会事業	137
	(二) 新しい産馬政策		
	①産馬会社		
1-60	明治11年	福島県産馬会社の設立	138
	②産馬組合―牧畜の近代化		
1-61	明治27年7月29日	福島県産馬組合の創立	138
1-62	明治29年11月15日	日清戦争後、相馬産馬組合への種馬移入	139
1-63	明治38年10月5日	日露戦争期の馬匹共進会	139
1-64	明治41年8月26日	軍馬飼育奨励下、馬匹検査	140

1-65	明治42年9月1日	相馬産馬組合による馬のセリ	140
1-66	明治45年4月6日	相馬郡産馬組合の中心 旧山中郷	140
	(四) 養蚕と関連産業		
	①郡区町村制当初の蚕糸業		
1-67	明治14年7月3日	内国勸業博覧会での表彰	141
1-68	明治14年7月3日	中村町の紙製繭量売捌所	141
	②発達した蚕糸業各分野		
1-69	明治40年7月15日	相馬蚕業館の状況	141
1-70	明治43年3月6日	相馬郡で秋蚕の発達に伴い桑園改良	142
1-71	明治43年4月16日	大野村の蚕業	142
1-72	明治43年4月27日	相馬郡の桑園管理①	143
1-73	明治43年4月28日	相馬郡の桑園管理②	144
	③製糸改良		
1-74	明治37年7月16日	生糸の水分問題	144
1-75	明治42年4月1日	中村共同揚返場計画 生糸の質向上を図る	145
1-76	明治43年3月30日	中村町に製糸場設立	145
1-77	明治45年4月28日	浜通り機械製糸業者協議会開催	146
1-78	明治45年7月9日	明治四十一年～四十五年の製糸業発達経過	146
	④機業		
1-79	明治41年12月9日	浜街道に力織機普及	147
1-80	明治44年11月15日	中村機業株式会社の設立	147
	(五) 林業の近代化		
1-81	明治30年7月13日	福島大林区署中村小林区署職員の辞令	148
1-82	明治42年5月18日	山上村の水力挽材工場	148

	(六) 町の商工業の変貌		
	①時代の反映―職人の転出		
1-83	明治13年1月16日	中村の刀鍛冶の転出	148
	②商工業の展開		
1-84	明治26年1月11日	中村町に商業活性化の兆し	149
1-85	明治18～33年	立谷商店 魚店から肥料店へ	149
1-86	明治31年	肥料店としての立谷商店	151
1-87	明治26年1月28日	熊川詳長郡長の下、中村町の商況	151
1-88	明治27年2月21日	日清戦争当時、中村町の商況	152
1-89	明治28年9月15日	磐城の鉱脈につながるか、山上村の炭鉱	152
1-90	明治30年9月4日	鉄道開通近し、商家奮起を望む声	152
1-91	明治30年10月29日	中村町の物価状況	152
1-92	明治33年7月3日	野馬追の頃、中村の諸商店の様子	153
1-93	明治42年8月3日	明治末、八幡村の物価	153
	③有力商店の紙上広告		
1-94	明治16年4月18日	丁子屋文房具店の広告	153
1-95	明治33年6月22日	新妻薬店の広告	153
	④旅館業・飲食業		
1-96	明治34年12月10日	県内旅館・料理店の人気投票結果	154
1-97	明治37年7月14日	原釜海水浴場の浴館施設	155
	⑤商工業の新側面		
1-98	明治30年1～9月	明治三十年 中村町の主な銀行	155
1-99	明治34年6月11日	明治三十年代 福島県内銀行の同盟①	156
1-100	明治37年5月26日	明治三十年代 福島県内銀行の同盟②	156

1-101	明治37年8月10日	農工銀行と地域①	157
1-102	明治37年8月14日	農工銀行と地域②	158
1-103	明治37年10月7日	明治三十六年度県内の勤勉貯蓄状況	158
1-104	明治30年11月2日	中村町に生命保険代理店を開店	159
⑥商工者の事業改善			
1-105	明治19年11月16日	宇多行方両郡連合の米商取締所設置へ	159
1-106	明治31年9月25日	県内各郡の機業者協議	159
1-107	明治33年7月10日	絹織物組合の相双部会開催	160
(七) 近代的施設・設備の登場			
①鉄道敷設			
1-108	明治26年4月13日	常磐線敷設第一期工事	160
1-109	明治26年9月20日	常磐線敷設の目的	161
1-110	明治26年10月28日	常磐線敷設について(中村町有志の運動)	161
1-111	明治30年6月30日	常磐線工事の進捗	162
1-112	明治30年11月13日	常磐線中村・岩沼間開通	162
1-113	明治31年8月26日	常磐線上野・仙台間全通	163
②電話架設			
1-114	明治43年11月13日	中村町に電話開通	164
1-115	明治44年7月12日	仙台通信管理局管内の電話増設	164
1-116	明治44年8月13日	中村町の電話、第三回加入者募集	165
③電力の登場			
1-117	明治42年9月17日	県内の電気事業	165
1-118	明治44年2月26日	中村電気株式会社、間もなく開業	165
(八) 報徳仕法(興復社)による北海道移住			

1-119	明治39年4月	興復社沿革(興復社設立から北海道移住まで)	166
1-120	明治14年	旧藩士から貸付年賦金返還(興復社)	172
1-121	明治29年12月	改正興復社規則	173
1-122	明治34年	興復社の事務所移転に伴う引継書	178
1-123	明治29年10月	興復社の移住民規約	180
第三節 社会			
一、地域社会と暮らし			
(一) 村の規範と町の慣行			
1-124	(明治後期)	日立木村の区長会規定	183
1-125	明治29年10月4日	大字柚木の規約	183
1-126	明治43年4月5日	中村町の年中行事	184
(二) 伝染病と衛生問題			
1-127	明治30年11月7日	伝染病の蔓延	185
1-128	明治34年	中村町の伝染病対策(明治三十三年中村町事務報告)	185
(三) 戦争と青年たち			
1-129	明治13年11月25日	西南戦争遺族への扶助	186
1-130	明治28年	日清戦争下の徴兵(明治二十七年中村町事務報告)	186
1-131	明治37年1月	日露戦争と大字の相互扶助	188
1-132	明治43年4月5日	中野青年会の活動	189
1-133	明治45年3月31日	青年会と婦人会の組織化	189
二、地域社会と宗教			
(一) 戊辰戦争・西南戦争と慰霊			
1-134	明治2年8月6日	戊辰戦争と招魂祭①	190

1-135	明治3年2月9日	戊辰戦争と招魂祭②	190
1-136	明治4年7月15日	寺院における戊辰戦争戦死者供養	191
1-137	明治11年7月3日	招魂場（黒木）の信夫山招魂社への統合	191
1-138	明治12年7月	西南戦争従軍者の墓碑	192
	(二) 維新期の社寺と祭礼		
1-139	明治3年11月17日	鎮守の変化	192
1-140	明治5年2月3～5日	妙見菩薩と天之御中主神	193
1-141	明治6年11月6日	祭礼の変化	194
	(三) 神仏分離と修験道の廃止		
1-142	明治2年2月	神仏分離と本山派修験	194
1-143	明治12年5月	神仏分離と仏像の移転	195
1-144	明治10年代	萬藏院の天台宗帰入	196
	(四) 相馬神社の創建		
1-145	明治12年9月18日	相馬師常祭祀の請願	196
1-146	明治13年3月1～7日	相馬神社の建設	197
1-147	明治41年9月	相馬神社報恩講の設立	199
	(五) 中村神社の昇格と古社寺の由緒		
1-148	明治18年2月23日	中村神社の県社昇格	200
1-149	明治12年	神社明細帳にみる涼ヶ岡八幡神社	203
1-150	明治12年	寺院明細帳にみる歓喜寺	205
1-151	明治44年8月11日	神明社（百槻）の財産登録	207
	(六) キリスト教の登場とその活動		
1-152	明治28年7月2日	相馬へのキリスト教伝道	209
1-153	明治35年3月31日	中村における婦人集会	210

第四節 教育

一、近代教育の創始

(一) 学校の創設

1-154	明治36年4月21日	中村講義所から中村教会へ	210
1-155	明治38年3月5日	中村教会と相馬中学校	211
1-156	明治6年9月～12年12月	中村第一小学校の開設	212
1-157	明治7年1月～19年3月28日	中村女子小学校の開設	213
1-158	明治6年10月～25年10月	大野小学校の開設	213
1-159	明治7年9月～23年4月17日	飯豊小学校の開設	214
1-160	明治6年11月8日～29年2月1日	磯部小学校の開設	215
1-161	明治6年11月8日～34年4月1日	日立木小学校の開設	216
1-162	明治6年10月3日～25年10月	中村第二小学校の開設	217
1-163	明治6年10月6日～25年10月1日	山上小学校の開設	218
1-164	明治7年5月18日～22年10月22日	玉野小学校の開設	220
1-165	明治6年10月～23年7月1日	八幡小学校の開設	220
1-166	明治19年9月	宇多郡学事景況	221
	二、学校教育の整備と拡充		
	(一) 「教育勅語」の普及と就学・進学率の向上		
1-167	明治24年2月23日	教育勅語謄本交付に際する郡長の示達	221
1-168	明治25年1月	中村高等尋常小学校の天長節の儀式	222
1-169	明治24年4月	組合立中村高等小学校の開設	222
1-170	明治30年2月27日	女子就学率の向上策	223
	(二) 県立相馬尋常中学校の創立をめぐる「思い」		

1-171	明治30年11月30日	相馬中学校位置論争①	223
1-172	明治30年12月1日	相馬中学校位置論争②	225
1-173	明治36年3月30日	相馬中学校第一回卒業生総代の答辞	226
	(三) 職業教育機関の設立		
1-174	明治33年3月23日	相馬郡看護婦養成規程	227
1-175	明治33年3月26日	相馬郡准教員養成所規程	227
1-176	明治33年4月13日	相馬郡准教員養成所學則	228
	(四) 相馬郡教育会・浜三郡連合教育会の設立		
1-177	明治23年11月	福島県私立教育会の部会設立	229
1-178	明治29年9月	福島県私立教育会相馬部会夏季講習会の開始	230
1-179	明治31年11月27日	相馬双葉石城の三郡連合教育会	231
第二章 大正～昭和前半の相馬			
第一節 行政			
一、大正期			
	(一) 町村の概要		
2-1	大正7年10、11月	町村内一般の状況	235
	(二) 町村の行政		
2-2	大正10年6月3日	中村町議の当落決定	237
	(三) 税制		
2-3	大正8年8月12日	必要費用確保のための増税許可申請 日立木村	238
	(四) 米騒動と行政		

2-4	大正7年8月12日	中村町で米価の協定	239
2-5	大正7年8月20日	米価に不満の中村町民、二の丸に集合	239
2-6	大正7年8月17日	米の廉売規程 中村町	239
2-7	大正7年8月16、20日	米騒動に係る郡役所指示文書(二件)	240
2-8	大正7、8年	貧窮者救助に関する報告(二件) 磯部村	241
	(五) 漁港整備に向けて		
2-9	大正3年10月12日	松川浦築港問題	242
2-10	大正7年10月19日	郡産業の状況	242
2-11	大正9年3月23日	松川浦築港総会の開催	243
2-12	大正12年	松ヶ江村の産業(松ヶ江村事務報告)	243
	(六) 中村町の整備拡張		
	①市街地拡張		
2-13	大正7年8月3日	耕地整理	243
2-14	大正7～10年	市街地整備に関する町長事務報告(三件)	244
2-15	大正9年2月28日	新市街道路の実測開始	245
	②消防		
2-16	大正7年3月11日	中村町消防組の活動(ガソリンポンプ購入)	246
	二、昭和前半(戦前・戦中)		
	(一) 行政		
	①中村町・松ヶ江村合併		
2-17	大正14年2月6日	郡役所廃止後の町村合併論議	246
2-18	昭和3年1月16日	中村町との合併に関する松ヶ江村議会への村長諮問案	247
2-19	昭和3年11月19日	中村町との合併に関する松ヶ江村議会の答申書	247

2-37	昭和5～9年	農業恐慌による税収減（磯部村事務報告）	255
2-36	昭和11年6月11日	中村町、滞納整理の本格化	254
2-35	昭和9年4月21日	山上村の滞納整理	254
2-34	昭和7年8月2日	税金滞納に伴う財産差押 日立木村	254
2-33	昭和7年5月28日	日立木村の滞納整理	253
2-32	昭和7年5月24日	中村町の滞納整理②	253
2-31	昭和5年9月10日	中村町の滞納整理①	253
2-30	昭和8年8月10日	戸数割に対する異議申し立て 中村町	252
2-29	昭和7年9月7日	戸数割問題の責任者辞職 中村町	252
2-28	昭和7年8月7日	中村町会、特別戸数割審議委員会の開催	252
2-27	昭和2年3月4日	特別税戸数割条例および同施行規程 中村町	251
2-26	昭和10年4月27日	救済資金を麦で給与 山上村	250
2-25	昭和7年8月23日	荷馬車組合救済についての陳情書 中村町	250
2-24	昭和5年9月9日	賃金を白米で支払う八幡村	249
2-23	昭和16年4月1日	宇多川上流改修へ	249
2-22	昭和9年11月28日	宇多川改修案 議会通過に馬力	248
2-21	昭和7年11月16日	宇多川氾濫 床上浸水など被害甚大	248
2-20	昭和5年9月9日	宇多川幅員拡張陳情	248
②治水			
(二) 恐慌と財政			
①恐慌対策			
②税制			
③税滞納			
④町村財政			

2-38	昭和7～10年	日立木村の財政状況	256
2-39	昭和8年11月1日	教員給与の未支給 山上玉野組合村	257
⑤経済更生運動			
2-40	昭和9年7月15日	山上負債整理組合設立認可	258
2-41	昭和10年6月21日	相馬郡の郷倉続々完成	258
2-42	昭和10年2月17日	八幡村共同作業場の建設協議	258
2-43	昭和10年7月9日	大野村郷倉組合を組織	259
2-44	昭和13年2月28日	農商および統計に関する事項（中村町事務報告）	259
2-45	昭和12年	昭和九年度指定 経済更生指定村台帳 磯部村	259
2-46	昭和12年3月12日	日立木村の教化運動	262
2-47	昭和12年2月19日	飯豊村で模範部落の造成	262
2-48	昭和12年4月16日	田中地区の借金返済五か年計画 飯豊村	262
(三) 漁港整備			
2-49	昭和7年9月19日	松川浦漁港の修築実現へ	263
2-50	昭和7年9月25日	松川浦漁港修築工事の開始	263
2-51	昭和11年1月10日	松川浦漁港の完備と大「中村町」への躍進	263
2-52	昭和12年5月12日	松川浦築港、浅瀬が課題	264
2-53	昭和16年3月17日	松川浦漁港第二期工事施行についての陳情（中村町事務報告）	264
(四) 中村町の発展と拡張			
①消防			
2-54	昭和9年4月5日	自動車ポンプ購入の決定	265
②サイレン			
2-55	昭和14年5月5日	サイレン設置	265

2-74	昭和12年12月16日	中村町で南京陥落の記念植樹	278
2-73	昭和12年12月15日	戦死者の町葬	277
2-72	昭和12年10月30日	中村町で上海陥落祝賀の提灯行列	277
2-71	昭和12年9月28日	中村町で保定（中国北部）陥落祝賀の旗行列	277
2-70	昭和12年9月27日	戦死者の町葬決定	277
2-69	昭和12年8月28日	武運長久の祈り	276
2-68	昭和12年8月25日	漁師に待機の禁足令 磯部村	276
2-67	昭和12年7月26日	山上村で武運長久祈願祭	276
2-66	昭和12年7月16年	動員・見送り、戦死・村葬（猪狩雄祐日誌）	269
2-65	昭和13年2月28日	兵事に関する報告（中村町事務報告）	269
2-64	昭和7年7月16日	戦死者の町葬を挙行	268
2-63	昭和6年10月14日	戦死者遺骨の出迎え	268
2-62	昭和8年2月28日	兵事に関する報告（中村町事務報告）	267
2-61	昭和10年7月26日	中村町柳橋の完成	267
2-60	昭和6年10月30日	宇多川橋の完成と渡橋式	267
2-59	昭和18年3月5日	道路の危険箇所解消	266
2-58	昭和13年6月29日	宇多川町・新町間の町道新設へ	266
2-57	昭和10年7月20日	大手先の道路改修要望	266
2-56	昭和7年10月12日	道路改修	265

③道路整備

④橋

（五）満州事変

（六）日中戦争・太平洋戦争

①日中戦争

2-92	昭和15年8月22日	長期戦態勢下の労務動員計画	289
2-91	昭和13年11月17日	中村町営の職業紹介所が国営に	288
2-90	昭和13年7月8日	中村町職業紹介所の設立	288
2-89	昭和17年2月12日	戦時公債の完売計画 日立木村	287
2-88	昭和16年6月17日	中村町隣組の貯蓄割当額決定	286
2-87	昭和15年4月29日	一戸当たり四百八十円 国民貯蓄の割当	285
2-86	昭和13年11月23日	中村報国貯金会 六百余名二千余口に達す好成绩	285
2-85	昭和14年10月27日	中村町で実戦さながらの焼夷弾訓練	285
2-84	昭和14年3月18日	防空訓練報告（中村町事務報告）	284
2-83	昭和11年7月19日	中村町で空襲防護団組織	284
2-82	昭和17年2月	シンガポール陥落祝賀旗行列の準備 日立木村	283
2-81	昭和17年1月14日	シンガポール陥落の翌日に中村町で戦勝祝賀会を予定	283
2-80	昭和16年20年	動員・徴用、村葬（猪狩雄祐日誌）	280
2-79	昭和17年3月16日	兵事に関する報告（中村町事務報告）	279
2-78	昭和15年4月9日	中村町・大野村・山上村・飯豊村合同軍馬慰霊祭	279
2-77	昭和14年7月4日	中村花柳界が、日中戦争記念日の七月七日を終日休業に	279
2-76	昭和13年10月29日	武漢三鎮（武昌・漢口・漢陽）陥落	278
2-75	昭和12年12月17日	大野村で南京陥落祝賀の戦勝奉告祭	278

②太平洋戦争

（七）翼賛体制・戦時体制

①防空訓練・空襲

②国債貯金割当

③勤労働員

2-113	2-112	2-111	2-110	2-109	2-108	2-107	2-106	2-105	2-104	2-103	2-102	2-101	2-100		2-99	2-98	2-97		2-96	2-95	2-94	2-93
昭和18年9月16日	昭和16年12月20日	昭和16年11月18日	昭和16年10月9日	昭和16年9月30日	昭和16年8月29日	昭和16年6月30日	昭和15年10月1日	昭和15年10月1日	昭和15年9月2日	昭和15年7月19日	昭和15年1月19日	昭和14年12月11日	昭和14年10月3日	⑤モノ不足・公定価格・闇取引	昭和16年6月18日	昭和15年12月24日	昭和15年10月10日	④翼賛体制	昭和19年1月7日	昭和18年8月20日	昭和17年9月8日	昭和16年3月17日
麦増産へ 中村の二の丸運動場開墾	中村町で塩の販売制限	居酒屋からコップ酒が消える	野菜の闇取引	松茸闇取引に中村署警戒	旧盆虚礼廃止 飯豊村	中村町農会でジャガイモの販売を禁止、隣組を通じて配給へ	中村町の木炭対策	雑魚類の価格が上昇	もつきり酒の販売時間規制	中元廃止の徹底 中村町	旧正月を控えて中村地方は砂糖不足	ガソリン不足によるバス便数の削減	石油不足についての陳情 山上村		相馬郡下各神社の禰宜で青壮年挺身隊結成	日立木村の常会に關わる諸規定	新体制での町内会結成促進 中村町		女子勤労働員促進 日立木村	短期女子勤勞奉仕隊編成	鉾山国民勤勞報國隊編成命令	資源調査ならびに国民青年登録の実施(中村町事務報告)
300	300	300	300	299	299	299	298	298	298	297	297	297	297		297	294	293		293	291	290	290

2-135	2-134	2-133	2-132	2-131	2-130	2-129	2-128	2-127	2-126	2-125	2-124	2-123		2-122	2-121	2-120	2-119	2-118	2-117	2-116	2-115	2-114
昭和18年7月1日	昭和18年5月11日	昭和18年2月27日	昭和18年11月3日	昭和18年5月28日	昭和18年7月1日	昭和17年9月11日	昭和16年10月28日	昭和16、17年	昭和19年1月11日	昭和14年5月20日	昭和16年3月17日	昭和13、20年	⑦供出	昭和19年10月21日	昭和18年3月9日	昭和17年6月23日	昭和17年3月16、17日	昭和17年3月12日	昭和17年1月28日	昭和16年11月17日	昭和15年12月28日	昭和15年6月19日
中村町の飯米供出 目標達成へ	供米完遂目指し、休養日返上で作業 中村町	中村町農会、供米割当完遂へ働きかける	磯部村長銅像の供出	鉄骨火の見櫓供出による木造火の見櫓再建へ	銅像等非常回収の実施 日立木村	梵鐘献納の皮切り 歓喜寺	中村町の鉄銅類回収	森林伐採促進 日立木村	桑皮生産供出の督励	「桑の皮はぎ」を始める 製紙・繊維の原料に	政府供出米に関する事務報告(中村町事務報告)	供出(猪狩雄祐日誌)		飯米の配給 日立木村	本年の配給取扱件数(中村町事務報告)	中村町の石鹼配給	菓子配給方法(二件)	中村町で菓子配給の切符制を実施	中村署で衣料購入の切符を交付	中村町で清酒の配給量決定	全国に先駆けて統制品の共同配給所を組織	中村町で砂糖配給の切符を配布
313	312	312	312	312	311	311	310	309	308	308	308	305		305	304	304	302	302	302	301	301	301

2-136	昭和18年12月21日	管理米売買の違反者を検挙	313
2-137	昭和19年11月19日	農民に飯米供出への奮起を促す	313
	⑧満州移民		
2-138	昭和17年3月19日	満州開拓民の内地訓練	314
	⑨森林組合		
2-139	昭和19年4～7月	森林組合の設立と伐採計画（三件） 日立木村	314
	⑩磯部陸軍施設工事		
2-140	昭和19年7～12月	磯部陸軍工事（五件）	316
	⑪国民義勇隊		
2-141	昭和20年5月26日	国民義勇隊	318
	⑫原釜の大火と再建		
2-142	昭和19年2月2日	原釜の大火 百五十戸を全焼	318
2-143	昭和19年3月3日	新原釜の建設へ 都市計画を内務省に答申	319
	⑬防空壕		
2-144	昭和19年3月10日	中村町で防空壕新設	320
2-145	昭和19年12月25日	中村町で待避壕を急速整備	320
2-146	昭和20年2月27日	国民学校の防空壕（大野村事務報告）	321
2-147	昭和20年8月8日	防空壕設置 磯部村	321
	⑭兵事事務		
2-148	昭和20年11月10日	在郷軍人名簿の処理	321
	三、昭和前半（戦後・市制施行前）		
	（一）武装解除		
2-149	昭和20年	昭和の刀狩り（猪狩雄祐日誌）	322
	（二）漁港、戦後の修築		
2-150	昭和21年4月5日	松川浦漁港の発展史	322
2-151	昭和21年10月9日	松川浦漁港の第二期修築工事開始	324
2-152	昭和24年2月23日	もう一息で完成 松川浦築港	324
2-153	昭和25年2月15日	松川浦漁港のドックの浚せつ	324
	（三）農政		
	①供出制度		
2-154	昭和21年	食糧危機下の供出（猪狩雄祐日誌）	325
2-155	昭和21年3月26日	供出不振の農家に勧告状	326
2-156	昭和21年4月5日	供出未完遂悪質農家に対する強権発動打ち合わせ	326
2-157	昭和21年4月26日	供出に応じないなら強権発動へ	326
2-158	昭和21年5月4日	相馬郡の供出 完遂の見込み	327
	②農地改革		
2-159	昭和22～25年	日立木村農地委員会会議録（抄）	327
	（四）中村町、戦後のまちづくり		
2-160	昭和23年9月5日	中村町の都市計画案（駅前土地区画整理）を審議	331
2-161	昭和24年11月3日	中村町の都市計画着工へ	331
2-162	昭和24年9月9日	相馬家が土地八千坪を寄付	331
2-163	昭和25年1月1日	野球場も着工 中村総合グラウンド	332
	（五）昭和の町村合併		
2-164	昭和29年2月14日	市制実施条件緩和のうちに合併へ	332
2-165	昭和29年2月16日	合併町村に特別交付金	332
2-166	昭和29年2月20日	特別交付金支給で町村合併が急速に進展	333
2-167	昭和29年2月25日	「相馬市」の建設を議決	333

2-168	昭和29年2月27日	新市名選定の理由（町村廃置分合についての申請書）	334
-------	------------	--------------------------	-----

第二節 産業

一、海や浦・川の産業

（一）漁業

①漁業一般・漁況

2-169	大正2年	磯部村漁業組合の月間漁獲高	335
2-170	大正8年1、2月	松川・和田・細田各漁業組合の漁獲高	338
2-171	大正12年10月26日	関東大震災の相馬地方漁業への影響	340
2-172	昭和5年	磯部村の漁業状況	340
2-173	昭和12年3月26日	中村町の漁業総覧	340
2-174	昭和23年3月21日	戦後の松川浦漁港の水揚量と公定価格	342
2-175	昭和23年9月27日	松川浦漁港の大型サンマ漁	342

②養殖業

《海苔》

2-176	昭和6年6月17日	飯豊漁業組合の海苔養殖	343
2-177	昭和8年10月30日	松川海苔の東京市場進出	343
2-178	昭和13年10月26日	相馬海苔商同業組合の設立	343
2-179	昭和23年2月6日	県外産海苔との価格競争	344
2-180	昭和6年8月23日	干しボッキの製造	344
2-181	昭和8年10月7日	ホッキ貝の缶詰製造	345
2-182	昭和8年10月27日	干しボッキの満州輸出	345

《カキ・アサリ》

2-183	昭和9年10月25日	カキの養殖	345
2-184	昭和29年1月7日	観光潮干狩りとアサリの養殖	346

③内水面漁業

2-185	昭和8年	河川漁業の概況	346
-------	------	---------	-----

④水産加工

2-186	昭和9年11月29日	イワシ加工場の建設	347
2-187	昭和16年12月7日	イワシ加工場の増設	347

⑤漁業組合

2-188	大正5年11月	磯部漁業組合の事業報告	348
2-189	大正15年4月29日	相馬郡内の漁業組合一覧	348
2-190	昭和10年6月24日	中村町の四漁業組合、統合へ	349
2-191	昭和12年3月31日	漁獲物販売の協議	349
2-192	昭和13年5月27日	共同販売所の完成	350
2-193	昭和24年3月28日	原釜に製氷冷凍工場を建設	350

⑥漁業権

2-194	大正5年9月21日	密漁禁止の請願 宇多川鮭養殖組合	351
2-195	大正8年2月12日	松川浦利用に関する陳情書 松川漁業組合	351
2-196	大正12年7月16日	漁業鑑札	352
2-197	大正12年2月2日	宮城県との漁場争い①	352
2-198	大正12年6月6日	宮城県との漁場争い②	353
2-199	大正12年8月15日	宮城県との漁場争い③	353
2-200	昭和5年2月15日	宮城県との漁場争い④	354
2-201	昭和8年12月2日	宮城県との漁場争い⑤	354

2-220	大正15年3月12日	葉タバコ栽培奨励に対する反対意見	370
2-219	(大正)昭和初期	結球白菜の栽培方法	369
2-218	大正13年11月7日	大野村の製茶業	369
2-217	昭和24年3月28日	農村改善運動への取り組み「四日クラブ」発足へ	369
2-216	昭和21年度	農事日誌(木幡家)	367
2-215	昭和9年6月11日	水稻の改良試験田設置	366
2-214	昭和8年8月16日	昭和八年の干害凶作	366
2-213	昭和6年12月1日	米の品質改良	365
2-212	昭和6年10月8日	昭和六年の冷害凶作	365
2-211	大正14年6月22日	田植えの共同作業	364
2-210	大正12年12月26日	関東大震災の農業への影響	364
2-209	大正4年6月(大正5年6月)	農事日誌(高玉家)	358
2-208	大正2年9、11月	水害による外国米の輸入量	358
2-207	大正3年	稲作に用いた肥料(大正期)	357
①農業一般			
(一)農業			
一、農林畜産業			
2-206	昭和23年3月16日	製塩業の衰退	356
2-205	昭和22年2月21日	塩田工事の進捗状況	356
2-204	昭和19年4月15日	相馬塩業株式会社の設立	355
2-203	大正8年3月26日	塩専売法の改正を求める請願の意見書	355
2-202	大正8年1月31日	塩専売制度下の漁村における製塩状況	354
(二)製塩業			
2-238	昭和12年1月14日	養鶏団体の調査	383
2-237	昭和24年3月21日	第二次世界大戦後の造林事業	383
2-236	昭和9年8月22日	玉野村の製炭業	382
2-235	昭和8年9月8日	林業経済状態調査	381
2-234	昭和19年2月19日	農会・産業組合の農業会への統合	380
2-233	昭和17年度	戦時中の農会の活動	379
2-232	大正9年	興復社の事務報告書	378
⑥農業団体			
(二)林業			
2-231	大正9年4月8日	小作証書(大正九年四月 小作証)	377
2-230	昭和22年2月23日	第二次世界大戦後の地主層	376
2-229	昭和24年6月14日	副霊山開拓	376
2-228	昭和24年5月25日	戦後の新沼浦干拓(排水問題)	376
2-227	昭和12年7月15日	玉野ため池工事の反対陳情	375
2-226	昭和9年	新沼浦干拓移住者への補助	374
2-225	大正13年7月16日	新沼浦干拓の入植募集	374
2-224	大正3年	新沼浦干拓の基本調査書	373
2-223	大正3年	八沢浦開墾に関する報告書	371
2-222	昭和15年1月16日	葉タバコの作付け	371
2-221	昭和5年10月30日	桑樹から葉タバコ栽培への転換奨励	371

2-239	昭和10～12年	相馬郡畜牛畜産組合の設立（三件）	384
2-240	昭和12年11月6日	子牛のせり	386
2-241	昭和13年2月24日	日中戦争と軍馬増産	386
三、養蚕・製糸業			
（一）養蚕業			
2-242	大正元年	養蚕組合生産量一覧	386
2-243	大正6年度	松ヶ江村新沼養蚕組合の事業	391
2-244	大正9年6月21日	第一次世界大戦後の反動恐慌への養蚕組合の対策	392
2-245	昭和4年5月	有限責任中村繭市場販売利用組合定款	392
2-246	昭和4年6月20日	中村繭市場の開設	393
2-247	昭和12年3月6日	繭市場から乾繭組合への改組	394
（二）製糸業			
2-248	大正6年7月4日	佐野製糸場の繭買い入れ①	394
2-249	大正7年6月16日	佐野製糸場の繭買い入れ②	394
2-250	大正9年12月6日	佐野製糸場の休業	395
2-251	昭和10年6月27日	中村第二製糸場休業閉鎖	395
2-252	昭和11年7月23日	中村第二製糸場、白河製糸場分工場として再開	395
2-253	昭和21年3月16日	鐘淵相馬工場の操業	396
四、産業組合			
2-254	大正15年1月31日	無限責任松ヶ江報徳信用購買組合の事業報告	396
2-255	昭和4年1月31日	無限責任松ヶ江報徳信用購買利用組合の事業報告	397
五、産業調査			
2-256	大正14年～昭和5年	中村町の物産調べ	398
六、出稼ぎ			

2-257	昭和12年	日立木村の出稼ぎ調査	400
七、商工業			
（一）商業一般・商況			
2-258	大正4年12月30日	中村町の年末商況	403
2-259	大正12年1月27日	中村町における商取引慣行の改善	403
2-260	昭和8年10月5日	中村町物産展	403
2-261	昭和9年3月29日	不況下の中村町商況	404
2-262	昭和21年3月3日	戦災者・海外引揚者の更生事業	404
2-263	昭和24年2月7日	相馬郡内の企業閉鎖状況	404
（二）諸会社			
2-264	大正2年2月10日	相馬商業株式会社設立	405
2-265	大正2年	相馬酒造株式会社設立	405
2-266	大正6年12月6日	中村町の新開楼、営業再開	406
2-267	大正7年10月4日	中村製瓦株式会社の事業概況	407
2-268	大正13年7月24日	酒・醬油製造高報告書（統計報告）	407
2-269	大正13年	相馬市の醸造家銘鑑	408
2-270	昭和24年3月14日	丸三製紙株式会社の操業開始	408
（三）金融			
2-271	昭和7年3月6日	相馬銀行の破産	408
（四）米国対日援助見返資金（ガリオア・エロア資金）			
2-272	昭和26年	米国対日援助見返資金中小企業貸付申込書	409
（五）商業団体			
2-273	昭和12年5月12日	中村商業組合の設立	411
2-274	昭和24年3月26日	中村商工会議所の創立	411

2-275	昭和24年度	中村商工会議所の活動①	411
2-276	昭和25年度	中村商工会議所の活動②	412
	(六) 中村電気株式会社の合併		
2-277	大正4年7月7日	中村電気・相馬電気・磐城水力電気の合併問題	413
2-278	大正9年1月17日	中村電気・相馬電気・磐城水力電気の合併	414
	(七) 亜炭		
2-279	昭和21年4月2日	亜炭の需要増	414
2-280	昭和23年6月9日	亜炭の需要減と輸送問題	414
	八、交通		
	(一) 鉄道		
2-281	大正8年12月10日	中村町民の福相鉄道期成運動	415
2-282	大正8年12月15日	福相鉄道期成同盟会の結成	415
2-283	昭和2年1月17日	福相電気鉄道株式会社の創立	416
2-284	大正10年1月18日	中原軽便鉄道軌道敷設特許願・趣意書	417
2-285	大正14年2月1日	中原軌道株式会社から原釜電気軌道株式会社への社名変更	418
2-286	昭和10年3月22日	相馬鉄道(旧原釜電気軌道)の免許取り消し申請	419
	(二) バス		
2-287	昭和10年10月16日	白石・中村間省営バスの開通	419
2-288	昭和15年5月22日	中村・原釜間バスの増発陳情	420
2-289	昭和16年12月7日	省営バス原釜駅に鯉魚出荷上屋建設	420
2-290	昭和22年2月20日	中村・福島間バス運行期成同盟会の発足	420
	九、観光		
	(一) 観光一般		

2-291	大正8年7月30日	原釜海水浴場の概況	421
2-292	大正14年8月4日	海水浴客増加により臨時列車運行へ	421
2-293	昭和12年6月18日	百尺観音の観光宣伝	421
2-294	昭和24年5月20日	松川浦への観光客誘致の取り組み	422
	(二) 相馬野馬追		
2-295	大正6年7月26日	野馬追期間の中村駅乗降客	423
2-296	昭和12年7月4日	野馬追一千年祭に向けた中村町の準備	423
2-297	昭和13年6月2日	映画による野馬追の観光宣伝①	423
2-298	昭和21年10月5日	戦後最初の野馬追	424
2-299	昭和28年7月7日	映画による野馬追の観光宣伝②	424
	第三節 社会		
	一、地域社会と暮らし		
	(一) 地域の備えと災害		
2-300	大正14年4月	日立木村大字柚木規定	425
2-301	(大正6年)	飯豊村火災予防組合規約	425
2-302	大正13年11月15日	飯豊村新田の勤儉実行に関する申し合わせ	426
2-303	昭和7年11月	昭和七年の中村町新沼・北小泉「風水害記念日誌」	427
2-304	昭和15年4月14日	老朽化した松川渡船の新造陳情	428
	(二) 中村町の水道布設		
2-305	大正5年8月17日	中村町の水道布設問題	428
2-306	大正13年12月5日	簡易水道布設の認可申請	429
2-307	大正15年1月29日	水道(中村町)と農業用水(飯豊村)をめぐる対立と調整	430

2-325	昭和14年11月23、24日	戦時期の村と神社（猪狩雄祐日誌）	464
2-324	昭和13年12月27日	戦時期の歳旦祭	464
2-323	大正11年4月	忠魂碑の建立	463
2-322	昭和17年1月26日	霊山神社の境内地整備計画	463
2-321	大正14年12月7日	霊山登山者歓迎会の設立	462
2-320	大正11年12月	歓喜寺諸堂宇大宮繕の寄付勸募	461
2-319	大正8年10月3日	民力涵養講演会の開催	461
2-318	昭和21年4月4日	程田青年分団の慰安演芸会	459
2-317	昭和23年4月1日	飯豊村程田青年分会則	458
2-316	昭和15年3月22日	中野女子青年団による帰還兵士の慰労会	457
2-315	昭和14年8月23日	中野青年団による戦没兵士慰霊祭・無縁仏供養及び戦線報告座談会	457
2-314	昭和14年8月21日	中野青年団による戦線報告座談会の開催	457
2-313	昭和13年11月6日	中野女子青年団員の稲刈り奉仕	457
2-312	昭和10年3月6日	中野処女会の修養会	457
2-311	昭和6年8月20日	中野青年団の無縁仏供養祭	456
2-310	昭和4年2月	中野公会堂建設史	433
2-309	大正5年1月	飯豊村程田支部青年会則	431
2-308	昭和3年	簡易水道の完成（昭和二年中村町事務報告）	431
(三) 青年たちの活躍			
一一、地域社会と宗教			
(一) 大正期の仏教			
(二) 霊山をめぐる動き			
(三) 戦争の時代と宗教			
第四節 教育			
一、大正期における教育の多様化と拡充			
(一) 中村第一尋常高等小学校『学校通信』の発刊と情報発信			
(二) 相馬高等女学校の創立と県立移管			
(三) 青年期教育の整備と拡充			
(四) 福島県薫陶園の創立と事業展開			
2-340	大正5年12月	大正2年 福島県薫陶園の沿革概要	475
2-339	大正5年12月現在	福島県薫陶園一覽表	473
2-338	大正10年10月2日	青年団・小女会（処女会）の総会	473
2-337	大正4年12月25日	相馬補習教育方針 二〇歳迄は必ず夜学	472
2-336	明治39年1月	日露戦後に普及した補習学校の姿	472
2-335	大正11年10月27日	相馬高等女学校の県立移管問題	471
2-334	大正11年8月5日	平泉弘人「相馬女学校たより」	470
2-333	大正5年11月	中村第一・第二尋常高等小学校連合運動会の様子	469
2-332	昭和28年11月18日	百尺観音の後援会発足	468
2-331	昭和24年10月2日	相馬神社の例祭	467
2-330	昭和23年7月21日	相双仏教会の結成	467
2-329	昭和15年	諏訪神社（黒木）の雨乞い	467
2-328	昭和9年5月	葬式組（百槻）の取り決め	466
2-327	昭和4年旧9月	氏子青年と初発会	465
2-326	昭和16年7月	出征の一風景	465
(四) 戦前・戦中の諸相			
(五) 戦後の諸相			

2-341	大正9年12月5日	相馬郡小学校長会 郡役所にて開催	475
2-342	大正4年10月15日	相馬中学校と小学校との連合研究会	476
	二、恐慌と戦争による教育活動の変転(昭和戦前期)		
	(一) 生活綴方・郷土教育		
2-343	昭和11年3月24日	綴方教師 武藤要の実践	479
2-344	昭和6年10月13日	相馬郡教育会の「郡民性調査」	480
2-345	昭和10年5月31日	『相馬郷土読本』の編さん	481
	(二) 国民学校教育		
2-346	(昭和16～20年)	国民学校令下の皇国民錬成の姿	481
2-347	昭和16年5月11日	中村第二国民学校(女子校)の錬成の姿	483
2-348	昭和46年7月	疎開児童の受け入れ	483
	(三) 青年教育・職業教育・感化教育		
2-349	大正15年7月1日～昭和17年3月2日	飯豊村青年訓練所・飯豊村青年学校の沿革概要	484
2-350	昭和15年12月14日	中村実践女子青年学校から中村高等女子職業学校への改称・改組	485
2-351	昭和19年3月20日	女子の勤労動員	485
2-352	昭和18年度	昭和十八年度 福島県薫陶園要覧	486
	(四) 報徳教育と報徳運動		
2-353	昭和10年10月24日	報徳講演会	488
2-354	昭和10年12月	昭和初期における報徳運動の再燃	488
2-355	昭和11年	中村第二尋常高等小学校の報徳教育	490
2-356	昭和16年7月31日	報徳訓を朗唱しての勤労作業	493
	(五) 幼児教育の黎明		

2-357	昭和5～50年	昭和戦前期の中村幼稚園学事一覧	493
2-358	昭和5年4月26日	中村町に幼稚園設立の計画	497
2-359	昭和6年6月17日	中村報徳保育園の開設	497
2-360	昭和15年6月15日	大野村の農繁託児所	497
	第三章 現代の相馬		499
	第一節 行政		
	一、市長選挙、市政の課題と行政計画		
3-1	昭和29年3月28日	市制施行直前の首長らによる座談会	501
3-2	昭和30年12月25日	軌道に乗る総合的な市運営	504
3-3	昭和31年10月5日	山上地区民大会 市長リコールに踏み切る	504
3-4	昭和32年8月11日	市長リコール問題の解決	505
3-5	昭和33年1月20日	相馬市長に佐藤氏(第二回相馬市長選挙結果)	505
3-6	昭和34、35年	新市建設基本計画書の作成経過	506
3-7	昭和37年1月15日	相馬市長に横山氏返り咲く(第三回相馬市長選挙結果)	507
3-8	昭和39年	新市建設実施計画書	508
3-9	昭和44年度	市勢振興五カ年計画	511
3-10	昭和48年12月24日	相馬市長に浜名氏(第六回相馬市長選挙結果)	512
3-11	昭和50年2月14日	相馬市総合計画案策定「海と緑の健康都市」を目指す	513
3-12	昭和52年12月21日	相馬市長に今野氏(第七回相馬市長選挙結果)初	513
3-13	昭和52年12月22日	今野氏が抱負「市民総参加の市政を」	515

3-33	昭和51年5月24日	相馬市役所新庁舎が完成	535
3-32	昭和49年1月4日	相馬市役所で再び火災	535
3-31	昭和48年8月9日	相馬市役所新庁舎建設敷地 中村城跡内に反対の 議決	534
3-30	昭和48年2月22日	相馬市役所で火災	533
3-29	昭和46年3月10日	相馬市役所で火災	532
3-28	昭和40年9月25日	相馬市課設置条例の制定へ 市制施行後初の機構 改革（八課体制）	531
3-27	昭和31年1月8日	新市建設五ヵ年計画実現に向けて	530
3-26	昭和29年3月31日	相馬市事務分掌条例の制定（八課体制）	530
3-25	平成15年12月20日	立谷市政三年目の課題 市職員の意識改革	528
3-24	平成15年12月19日	立谷市政三年目の課題 市民主体のまちづくり	527
3-23	平成14年1月20日	立谷市政開始 地方独自の施策を立案・実行へ	525
3-22	平成13年12月25日	相馬市長選 開発型に決別求めた民意反映	524
3-21	平成13年12月24日	相馬市長に立谷氏（第二三回相馬市長選挙結果）	523
3-20	平成13年12月13日	相馬市政の課題 企業誘致	522
3-19	平成13年3月	第三次相馬市総合計画「活力あふれる創造的な交流・ 循環都市」を目指す	521
3-18	平成5年12月24日	今野市政五期目の課題 文化・スポーツ施設の充実	520
3-17	平成5年12月22日	今野市政五期目の課題 高速交通網の整備	519
3-16	平成元年12月27日	今野市政四期目の課題 相馬地域総合開発	517
3-15	平成元年12月26日	今野市政四期目の課題 商業近代化	516
3-14	昭和60年5月15日	第二次相馬市総合計画策定へ	515
3-51	昭和48年5月1日	松川浦新漁港建設計画と問題点	550
3-50	昭和47年8月	相馬青年会議所が第一回市民会議を開催 相馬開 発などへ問題提起	549
3-49	昭和47年6月12日	磯部漁港でホッキ漁ができない 漁港指定へ働き かけ	548
3-48	昭和47年6月5日	相馬地域総合開発計画策定へ 相馬港を整備し無 公害工場を誘致	547
3-47	昭和46年10月10日	尾浜海水浴場	546
3-46	昭和40年6月10日	松川浦が浅海漁場開発区域に	546
3-45	昭和39年7月31日	相馬臨海工業地区の現状 基盤整備が先決問題	545
3-44	昭和34年5月13日	原釜に大避難港の建設計画 産業開発・工場誘致 の基幹としても期待	544
3-43	昭和31年6月14日	原釜避難港及び商港期成同盟促進運動計画に関す る陳情書	543
3-42	昭和29年6月14日	松川浦総合開発計画の請願書	541
3-41	平成16年3月12日	財政再建プログラムが策定できない 財源確保に 苦慮	541
3-40	平成15年11月23日	相馬市機構改革実施へ（企画政策部などを設置）	540
3-39	平成15年9月5日	相馬市 財政非常事態宣言へ	540
3-38	平成15年7月12日	相馬地方任意合併協議会解散 合併の枠組みを再 検討	539
3-37	平成14年11月30日	相馬地方六市町村 相馬地方任意合併協議会設置へ	538
3-36	平成13年1月31日	新地で合併すべき	538
3-35	平成8年1月11日	一八年前に機構改革へ（福祉部を新設）	537
3-34	昭和53年9月22日	相馬市部設置条例の制定へ 機構改革（五部一室 体制）	536
三、港湾整備と相馬地域総合開発			

3-52	昭和48年8月20日	松川浦浅海漁場開発事業 急ピッチで進む	552
3-53	昭和49年2月6日	相馬地域総合開発計画に関する陳情書（塚部）	553
3-54	昭和49年2月26日	新沼干拓地区土地買収反対についての請願書	554
3-55	昭和52年9月8日	相馬地域総合開発 県政の課題 第三次全国総合開発計画の定住構想実現へ	555
3-56	昭和52年9月9日	相馬地域総合開発 開発元年	556
3-57	昭和53年2月26日	真野ダム建設 昭和五十五年度着工へ大きく前進	558
3-58	昭和55年4月22日	石炭火力発電所建設へ 相馬地域総合開発の核に	559
3-59	昭和56年1月21日	相馬地域総合開発始動 地域振興整備公団事業採択へ	560
3-60	昭和56年2月5日	相馬地域総合開発 地元経済界は積極姿勢	562
3-61	昭和56年2月7日	相馬地域総合開発 表立った反対運動なし	564
3-62	昭和56年3月28日	相馬港 全国初のエネルギー港湾指定	566
3-63	昭和58年3月1日	相馬地域開発地区除外に関する陳情書（新沼）	566
3-64	昭和58年9月2日	相馬地域総合開発 中核工業団地への企業進出が成否のカギ	568
3-65	昭和62年3月20日	相馬中核工業団地が起工	569
3-66	平成5年9月4日	大野台浄水場が起工	570
3-67	平成6年4月14日	相馬中核工業団地の第一期造成工事完了 日本初の電源地帯工業団地	570
3-68	平成7年3月16日	松川浦大橋開通へ 原釜・尾浜地区と磯部地区を結ぶ	571
3-69	平成7年9月19日	相馬地域総合開発 バブル崩壊で進まぬ企業立地	572
3-70	平成7年9月21日	相馬地域総合開発 国内最大出力を誇る石炭火発頼み	573
3-71	平成9年7月5日	石川島播磨重工業 相馬市に新工場建設、地元雇用創出へ	574

3-72	平成12年4月21日	松川浦新漁港の完成祝う	575
四、都市計画、火葬場建設地紛争、津波防災			
（一）都市計画			
3-73	昭和29年6月23日提出	中村駅前土地区画整理協議会条例の制定へ	576
3-74	昭和49年6月8日提出	相馬市都市公園条例の制定へ	576
3-75	昭和46年9月18日提出	川沼土地区画整理事業施行に関する条例の制定へ	577
3-76	昭和49年11月2日	刈敷田ニュータウンの構想固まる 集会所や児童公園も建設	578
3-77	昭和50年1月9日	川沼土地区画整理事業 工期を五年延長	579
3-78	昭和54年2月13日	相馬駅東土地区画整理事業が始動	579
3-79	昭和59年3月3日	市営住宅刈敷田団地が落成 鉄筋四階建て	581
3-80	平成4年11月21日	市街地再開発へ 交差する東西線・田町通りを整備	581
3-81	平成8年3月26日	馬場野住宅団地が完成 市初の分譲住宅地	582
3-82	平成11年11月18日	相馬駅東土地区画整理事業が終了 一部で住所変更	583
（二）火葬場建設地紛争			
3-83	昭和55年4月7日	黒木地区火葬場建設予定地の変更を求める陳情書	583
3-84	昭和56年12月4日	坪田地区火葬場建設計画を県が承認 反対同盟は提訴の構え	584
3-85	昭和61年3月3日	坪田地区火葬場建設進捗状況	585
3-86	昭和61年3月5日	坪田地区火葬場建設事業費の新年度予算可決	585
3-87	昭和62年9月2日	坪田地区火葬場建設阻止行動	585
3-88	昭和62年12月3日	坪田地区火葬場建設、未明の着工強行は失敗 火葬場建設促進特別委員会を招集	586
3-89	平成元年6月6日	第一回火葬場建設促進懇話会概要	587
3-90	平成3年10月23日	赤木地区への火葬場建設に係る協定書（写し）	589

3-91	平成3年11月5日	火葬場問題	計画策定から一一年目の決着	590
3-92	平成3年11月6日	火葬場問題 振興金交付	嫌忌施設受け入れの代償として地域	591
3-93	平成7年7月1日	赤木地区の火葬場建設に着工		592
(三) 津波防災				
3-94	昭和55年9月6日	県総合防災訓練	初の船舶訓練も実施へ	593
3-95	昭和58年8月20日	地震・津波対策講習会の開催	地震と津波は一体で考えるべき	593
3-96	平成8年3月7日	地震・津波訓練	松川浦に面した松川地区で実施	594
3-97	平成11年2月26日	相馬市地域防災計画の改正	震災対策編を追加	595
3-98	平成12年3月16日	相馬市初の防災マップを作成	津波時の一時避難所も記載	595
3-99	平成12年8月31日	県総合防災訓練を相馬港などで実施	津波を想定し、三万人が参加	596
3-100	平成14年8月28日	自主防災組織が年々増加	平成十四年度中に全行政区区での結成を目指す	596
第二節 産業				
一、海や浦・川の産業				
(一) 漁業・養殖業				
3-101	昭和35年5月3日	ノリの養殖と赤潮対策	松川浦	598
3-102	昭和39年9月11日	漁業災害補償制度の開始		598
3-103	昭和43年3月10日	沿岸漁業の様子	原釜	600
3-104	昭和48年3月7日	ノリ出荷の様子	松川浦	602
3-105	昭和48年3月14日	松川漁港の活気と女性の活躍		602
3-106	昭和49年6月15日	漁船の燃料高騰（オイルショックの影響）		603

3-107	昭和50年5月26日	水産資源保護の取り組み（ホッキ貝増殖計画）	磯部漁協	603
3-108	昭和52年11月17日	漁業無線の拡充	相馬原釜漁協	604
3-109	昭和58年2月2日	ズワイガニ（松葉ガニ）漁の活況	相馬原釜漁協	605
(二) 漁業組合				
3-110	昭和54年～平成3年	宇多川さけ事業化検討委員会等経過		606
3-111	平成2年	宇多川鮭増殖組合規約		607
3-112	平成10年	松川浦の漁協合併について		608
3-113	平成15年	相馬双葉漁業協同組合の合併及び事業経営計画書		610
(三) 製塩業				
3-114	昭和31年2月18日	相馬塩業株式会社が操業再開へ		613
3-115	昭和33年8月24日	東北開発株式会社 相馬塩業株式会社に経営協力		614
3-116	昭和34年10月21日	塩の過剰生産と塩業整理		614
3-117	昭和35年4月	塩業整備臨時措置法と相馬塩業株式会社の廃業		615
二、農林畜産業と養蚕、市場				
(一) 農業				
3-118	昭和40年3月4日	不順な天候への対応	稲作技術対策	617
3-119	昭和44年8月1日	広まるキュウリ栽培	水田転換作物へ	617
3-120	昭和55年6月30日	ハトムギ栽培の始まり	水田利用再編対策	618
3-121	昭和55年8月8日	記録的な冷夏	心配される農業への影響	619
3-122	昭和58年11月15日	セリ栽培と出荷の様子	椎木	620
3-123	昭和63年5月15日	県内初の大規模は場整備	今田	621
(二) 果樹				
3-124	昭和34年10月21日	イチゴの栽培指針		622

3-141	昭和56年2月6日	ナシ団地の造成	磯部	623
3-140	昭和56年4月20日	イチゴの出荷の様子	和田	623
3-139	(三) 農業用水			
3-138	昭和49年1月18日	不足する農業用水 雨が降らず、ため池の水位が下がる		624
3-137	昭和53年11月16日	鴻ノ巣ダムの完工式	農業用水の確保	625
3-136	平成8年2月15日	松ヶ房ダムの貯水式	慢性的な農業用水不足解消へ	625
3-135	(四) 養蚕			
3-134	昭和30年12月22日	蚕糸増産の努力		626
3-133	昭和41年5月18日	機械化する桑園管理		627
3-132	(五) 林業			
3-131	昭和43年1月30日	相馬地方森林組合の発足		628
3-130	昭和45年1月16日	日本初のナメコ生産一括管理		629
3-129	(六) 畜産			
3-128	昭和41年6月2日	副霊山の酪農の様子		630
3-127	昭和42年8月18日	伸びる牛乳需要		631
3-126	(七) 農業協同組合			
3-125	昭和61年1月23日	相馬市農協と副霊山農協の合併		632
3-124	昭和61年12月2日	養蚕農業協同組合の合併	大野・八幡・山上	632
3-123	平成8年3月4日	そうま農業協同組合（JAそうま）の発足		632
3-122	(八) 市場			
3-121	昭和32年11月17日	青果市場の発足とせりの様子		633
3-120	昭和53年12月11日	水産物公設市場創設に関する陳情書		634
3-119	平成5年8月24日	相馬総合卸売市場の完成	第三セクターが運営	636

3-142	(一) 地元の商業			
3-141	昭和41年1月24日	躍進する相馬あられ	テレビCMで売り上げ好調	637
3-140	昭和44年10月1日	家具製造の経営合理化	相馬家具工業協同組合	638
3-139	昭和43年11月20日	プラスチック造船の始まり	松川造船所	639
3-138	昭和48年3月30日	駅前に農協会館移転	スーパー併設	640
3-137	昭和52年6月3日	フジコシの移転計画		640
3-136	昭和52年11月4日	岐路に立つ三商店街（栄町・田町・大町）	県の経営診断報告	641
3-135	昭和56年9月14日	銀行支店名の一斉変更 「中村支店」 から 「相馬支店」 へ		643
3-134	昭和59年8月11日	ジャスコの進出	地元主導型ショッピングセンターの核テナント	643
3-133	昭和61年12月16日	市商業活動調整協議会が大型二店の出店を結審		644
3-132	平成5年3月30日	田町商店街の再開発計画		645
3-131	(二) 商工会議所			
3-130	昭和29年8月10日	相馬商工会議所の発足		646
3-129	昭和49年11月25日	商業活動調整協議会の発足	大型小売業者と一般小売業者の調整	647
3-128	(三) 鉄道			
3-127	昭和39年3月8日	常磐線草野・岩沼間の電化		648
3-126	昭和39年7月3日	相馬・福島間の鉄道構想	丸森線を相馬まで延伸	649
3-125	昭和40年7月3日	海水浴列車（臨時列車）の運行		650
3-124	昭和55年7月11日	相馬駅列車対策協議会の活動		651
3-123	五、観光			

3-172	昭和59年3月	昭和美旗巻線の維持存続に関する陳情書	668
3-171	昭和39年12月16日	相馬市行政連絡員嘱託条例の一部を改正する条例 についての審議	666
3-170	昭和39年3月5日	瀬庭公会堂の完成	666
3-169	昭和33年7月1日	行政連絡員の名称を「区長」と改称することにつ いての陳情書	664
3-168	昭和31年	大野地区防犯協会の結成	662
3-167	昭和31年	相馬市行政連絡員会規約	661
3-166	昭和31年3月16日	相馬市行政区設置条例	659
第三節 社会			
一、地域社会と暮らし			
(一) 行政と大字			
3-165	昭和48年3月9日	自然を守りながら誘客対策	658
3-164	平成2年3月12日	イチゴ狩りのにぎわい 和田観光いちご園	657
3-163	昭和63年12月17日	ズワイガニ（松葉ガニ）を松川浦観光の目玉に	656
3-162	昭和59年2月9日	潮干狩り解禁日を控えた期待感 松川漁協	655
3-161	昭和44年3月30日	潮干狩り観光の盛況 松川浦	655
3-160	昭和59年5月17日	野馬追の後継者問題	654
(二) レジャー産業			
3-159	昭和41年7月25日	野馬追の活況 七月二十三～二十五日開催が図に 当たる	653
3-158	昭和35年11月5日	野馬追の開催日変更 七月十六～十八日に	652
(二) 暮らしと青年たち			
3-173	昭和49年4月1日	相馬市生活改善申し合わせ事項	668
3-174	昭和59年1月	冠婚葬祭に関する規定	670
3-175	昭和30年代	昭和三十年代の程田青年会の活動	671
3-176	昭和35年8月10日	相馬市連合青年会会報の創刊	682
(三) 簡易水道の広がりとして市上水道への統合			
3-177	昭和39年12月15日	岩子簡易水道の完成	693
3-178	昭和45年4月1日	石上・日下石への上水道延長	693
3-179	平成4年3月29日	簡易水道の上水道への統合	694
(四) 環境・衛生問題とその対策			
3-180	昭和39年8月11日	し尿処理場（衛生センター）設置反対運動	694
3-181	昭和43年10月2日	中村城外堀の汚染	695
3-182	昭和49年9月1日	公害対策の進展（工場の排水処理施設を調査）	696
3-183	昭和50年3月1日	公共下水道事業の開始	697
3-184	昭和57年12月1日	ゴミを考える市民大会	697
二、地域社会と宗教			
(一) 現代の諸相			
3-185	昭和31年1月29日	長命寺の屋根替えに関する協議	698
3-186	昭和37年2月14日	滝場神社の改築に関する協議	698
3-187	昭和54年10月26日	岩子墓地管理委員会の設立に関する協議	699
3-188	昭和55年7月24日	相馬中村神社の社殿復旧と遷宮祭	699

第四節 教育

一、教育の民主化と六・三・三制への移行

3-172	昭和59年3月	昭和美旗巻線の維持存続に関する陳情書	668
3-171	昭和39年12月16日	相馬市行政連絡員嘱託条例の一部を改正する条例 についての審議	666
3-170	昭和39年3月5日	瀬庭公会堂の完成	666
3-169	昭和33年7月1日	行政連絡員の名称を「区長」と改称することにつ いての陳情書	664
3-168	昭和31年	大野地区防犯協会の結成	662
3-167	昭和31年	相馬市行政連絡員会規約	661
3-166	昭和31年3月16日	相馬市行政区設置条例	659
第三節 社会			
一、地域社会と暮らし			
(一) 行政と大字			
3-165	昭和48年3月9日	自然を守りながら誘客対策	658
3-164	平成2年3月12日	イチゴ狩りのにぎわい 和田観光いちご園	657
3-163	昭和63年12月17日	ズワイガニ（松葉ガニ）を松川浦観光の目玉に	656
3-162	昭和59年2月9日	潮干狩り解禁日を控えた期待感 松川漁協	655
3-161	昭和44年3月30日	潮干狩り観光の盛況 松川浦	655
3-160	昭和59年5月17日	野馬追の後継者問題	654
(二) レジャー産業			
3-159	昭和41年7月25日	野馬追の活況 七月二十三～二十五日開催が図に 当たる	653
3-158	昭和35年11月5日	野馬追の開催日変更 七月十六～十八日に	652
(二) 暮らしと青年たち			
3-173	昭和49年4月1日	相馬市生活改善申し合わせ事項	668
3-174	昭和59年1月	冠婚葬祭に関する規定	670
3-175	昭和30年代	昭和三十年代の程田青年会の活動	671
3-176	昭和35年8月10日	相馬市連合青年会会報の創刊	682
(三) 簡易水道の広がりとして市上水道への統合			
3-177	昭和39年12月15日	岩子簡易水道の完成	693
3-178	昭和45年4月1日	石上・日下石への上水道延長	693
3-179	平成4年3月29日	簡易水道の上水道への統合	694
(四) 環境・衛生問題とその対策			
3-180	昭和39年8月11日	し尿処理場（衛生センター）設置反対運動	694
3-181	昭和43年10月2日	中村城外堀の汚染	695
3-182	昭和49年9月1日	公害対策の進展（工場の排水処理施設を調査）	696
3-183	昭和50年3月1日	公共下水道事業の開始	697
3-184	昭和57年12月1日	ゴミを考える市民大会	697
二、地域社会と宗教			
(一) 現代の諸相			
3-185	昭和31年1月29日	長命寺の屋根替えに関する協議	698
3-186	昭和37年2月14日	滝場神社の改築に関する協議	698
3-187	昭和54年10月26日	岩子墓地管理委員会の設立に関する協議	699
3-188	昭和55年7月24日	相馬中村神社の社殿復旧と遷宮祭	699

3-206	昭和45年7月	市教育委員会教務課職員からみた特殊教育の現状と課題	714
3-205	昭和31年	桜丘小学校の新設	713
3-204	昭和61年1月9日	市内一六校に「いじめ一〇番」	713
3-203	昭和56年2月7日	相馬市初の移動教育委員会の試み	712
3-202	昭和43年5月	県教委月報に報じられた相馬市教育行政の姿	711
3-201	昭和30年8月	相馬市文化団体協議会会則（案）	709
3-200	昭和29年12月	相馬報徳会設立趣意書（案）	708
3-199	昭和28年3月1日	青年学級の開設	707
3-198	昭和34年	公民館の草創期	706
3-197	昭和27年11月	日立木村教育委員会の発足	705
3-196	昭和24年3月21日	中村高等女学校で最後の卒業式	705
3-195	昭和25年2月13日	高校統合期成同盟会の分裂と反対署名	704
3-194	昭和24年2月7日	総合高校設立の期成同盟会	704
3-193	昭和24年6月1日	中村第一中学校PTA（父母と教師の会）会則	703
3-192	昭和22年9月	中村第一中学校校友会創設の呼びかけ文	702
3-191	昭和22年4月16日	山上中学校の開設	702
3-190	昭和22～52年度	中村第一中学校の開設	701
3-189	昭和21年9月26日	教員団体の再編	701
（一）教育会の解散と新制中学校の設置			
（二）新制高等学校を巡る論議と教育委員会の発足			
（三）町村公民館の設置と社会教育活動の展開			
二、教育行政と学校教育の拡充			
（一）相馬市教育委員会のあゆみ			
（二）学校教育の拡充			

3-223	平成14年	学校教育指導の重点項目	739
3-222	平成13年	相馬市立小・中学校学力向上推進会議設置要綱	737
3-221	平成12年3月23日	適応指導教室の開設	736
3-220	平成6年	充実した姉妹都市交流の推進	735
3-219	昭和62年6月	今こそ生かそう報徳精神	734
3-218	昭和43年4月1日	相馬教育を語る会の座談会	732
3-217	昭和62年10月1日	二宮尊徳生誕二〇〇年記念の講演会	730
3-216	平成20年12月31日	相馬市体育協会の設立	729
3-215	昭和39～56年	社会教育の多様化と施設拡充	727
3-214	昭和63年7月11日	みどり幼稚園の書道教育	726
3-213	昭和43年3月23日	相馬市立幼稚園条例	725
3-212	（昭和50年代）	まきは幼稚園児募集	724
3-211	昭和61年	養護学校「ゆりが丘ちびっこ野馬追行列」放送原稿	723
3-210	昭和46年3月	桜丘小学校の日記指導	721
3-209	昭和40年10月	中村第二小学校で試みられた教科担任制	718
3-208	昭和36年12月	山上小学校中井塚分校の設備充実	716
3-207	昭和32年12月14日	中村第一小学校・中村第一中学校が全日本学校器楽合奏コンクールで日本一	716
（二）特色ある教育活動			
（四）幼稚園教育の充実			
（五）社会教育施設・活動の拡充			
三、生涯学習時代の教育			
（一）新たな市教育行政の展開			

3-224	平成12年4月5日	市立養護学校の高等部開設	740
3-225	平成14年1月13日	県内初の学校安全管理マニュアル	741
		(二) 義務教育における多彩な教育実践	
3-226	平成8年1月26日	中村第一中学校の新制服	742
3-227	平成9年12月	玉野中学校の森林教室	742
3-228	平成9年7月5日	磯部小学校児童と地区のお年寄り 浴場などで奉仕活動	743
3-229	平成14年1月1日	磯部中学校PTAの文部科学大臣表彰	744
3-230	平成12年	「総合的な学習の時間」実施状況調査	744
3-231	平成16年1月31日	小中学校の教諭が連携、一貫教育推進へ	747
		(三) 相馬高等学校・相馬女子高等学校の共学化	
3-232	平成10年6月9日	共学化に対する生徒の声	748
3-233	平成15年5月4日	相馬東高等学校の新しい校歌・校旗披露	749
		(四) 職業教育・専門教育機関の再編	
3-234	平成7年3月19日	相馬技術専門校の閉校	750
3-235	平成10年3月20日	木村文化専門学校閉校	750
3-236	平成11年3月29日	公立相馬総合病院附属看護学院の閉校	751
3-237	平成13年10月27日	相馬看護専門学校草創期	751
		(五) 保育・子育て支援の拡充	
3-238	平成4年5月1日	新園舎完成を祝う 相馬愛育園	752
3-239	平成14年4月	相馬市立幼稚園「預かり保育」の実施	753
3-240	平成14年11月10日	少子化時代における保育の姿	755
		(六) 生涯学習体制の整備	
3-241	平成5年5月10日	相馬市民大学の開講	757

3-242	平成10年5月10日	「スポーツアリーナそうま」の建設	757
3-243	平成15年12月10日	市立図書館の移転	758

第四章 近現代の文化

第一節 文学

一、短歌

4-1	大正9年2月25日	相馬歌壇の印象	761
		天野多津雄	
4-2	昭和44年3月20日	歌をつづつて二十五年間 相馬短歌会	763

二、俳句

4-3	昭和34年	相馬地方における古今の俳句 斎藤笹舟	765
-----	-------	--------------------	-----

三、文芸史

4-4	昭和50年6月8日	漱石の「明暗」小林医師は相馬の人	767
-----	-----------	------------------	-----

四、文人たちの紀行文(明治・大正期)

4-5	明治30年10月	うつしゑ日記 幸田露伴	769
4-6	明治30年10月	遊行雑記 幸田露伴	770
4-7	明治30年10月	松川浦 大橋乙羽	773
4-8	明治39年11月	岩代中村 河東碧梧桐	774
4-9	明治40年	松川浦 大町桂月	774
4-10	大正元年11、12月	南船北馬集第七編 福島県東部巡講日誌 井上円了	776
4-11	(大正9年)	松川浦に遊ぶ 田山花袋	778

第二節 芸術

4-12	大正5年5月30日	中村町七聖会	785
4-13	大正7年5月30日	中村町に音楽研究会	785
4-14	大正8年7月6日	中村美登利会	786
4-15	大正10年9月30日	中村町で音楽会	786
4-16	大正10年10月19日	中村町で処女会音楽会	786
4-17	大正10年10月25日	中村音楽研究会①	787
4-18	大正12年6月28日	中村音楽研究会②	787
4-19	大正13年8月23日	ピー、エール会音楽大会	787
4-20	昭和7年10月4日	中村町で音楽会 基督教会が主催	787
4-21	昭和9年4月16日	中村町で琵琶演奏	788
4-22	昭和9年7月11日	中村町でレコードコンサート	788
4-23	昭和32年1月12日	相馬市民合唱団 楽し、名曲のコーラス	788
4-24	昭和37年	佐藤己之太郎	789
4-25	昭和20年9月30日	立谷武助宛 佐藤清蔵書簡	790
4-26	昭和20年10月	和気清麻呂像画賛(紙本墨画)	790
4-27	昭和22年7月28日	藤田魁山宛 佐藤清蔵書簡	791
4-28	昭和23年以降	佐藤玄々自筆履歴(草稿) 紙本墨書	792
4-29	明治10年11月20日	内国勲業博覧会 褒状(相馬駒焼)	793
4-30	明治17年7月7日	相馬駒焼の商標登録明細書(控)	794
4-31	明治17~19年	相馬駒焼の商標登録関係資料(六件)	794
4-32	明治36年7月1日	第五回内国勲業博覧会賞状(相馬駒焼)	797

4-33	明治37年	セントルイス博覧会賞状(相馬駒焼)	797
4-34	大正13年	博覧会共進会品評会陳列館参考品 出品簿(相馬駒焼)	798
4-35	(昭和20年代)	中村町付近の陶磁器製造業者調査	799
4-36	(昭和44年)	相馬駒焼釉薬調合記録	800
4-37	昭和37年2月1日	館の下窯 発見の動機 近藤京嗣	800
4-38	昭和52年7月1日	甲冑武具審査会①	801
4-39	昭和53年1月1日	甲冑武具審査会②	802
4-40	大正2年10月25日	相馬中学校創立十五周年記念日記事	803
4-41	昭和2年10月	相馬中学校絵画研究会 エーゼル会	804
4-42	大正10年10月18日	中村町の美術展覧会	805
4-43	大正15年10月5日	相美会	805
4-44	昭和57年12月4日	相馬絵画研究所	805
4-45	平成9年2月25日	相馬市文化団体連絡協議会加盟団体一覧	806
4-46	大正4年10月26日	中村町武道大会の盛況	808
4-47	平成元年9月	大相撲「玉ノ井部屋」相馬市後援会の設立	808
4-48	平成7年5月16日	第50回国民体育大会 相馬市開催基本方針	809
4-49	平成13年9月25日	松川浦パークゴルフ場の盛況	810

五、松川浦大橋ふれあいマラソン大会

4-50 平成7年11月7日 第一回松川浦大橋ふれあいマラソン大会の開催…… 810

第四節 学術

一、草野 俊助

4-51 大正6年5月25日 郷土の診断 草野俊助…………… 811

二、吉田 巖

4-52 昭和11年12月25日 方面委員の体験 吉田巖…………… 813

三、岩崎 敏夫

4-53 昭和48年 柳田国男先生 岩崎敏夫…………… 816

四、今野 源八郎

4-54 昭和58年10月 交通政策研究50年 今野源八郎…………… 818

五、鎌田 正

4-55 平成13年 『大漢和辞典と我が九十年』序 鎌田正…………… 822

第五節 郷土史研究

一、只野 清

4-56 昭和8年6月 『稿本相馬史』編者の言 只野清…………… 824

二、斎藤 笹舟

4-57 昭和28年 『明治戊辰戦争 全』序文 斎藤笹舟…………… 824

三、文化財保存運動

4-58 昭和49年2月11日 相馬の城跡を守るための陳情書…………… 825

四、相馬郷土研究会

4-59 昭和62年11月28日 相馬郷土研究会規約…………… 826

第六節 その他

一、磯村 春子

4-60 明治41年3月 婦人記者の実歴談 磯村春子…………… 828

二、広文堂書店

4-61 大正3年 貸本出入帳…………… 829

三、角野 憲夫

4-62 昭和50年4月 『相馬通信』第一号 ごあいさつ…………… 830

掲載資料一覧

関係者一覧…………… 832